

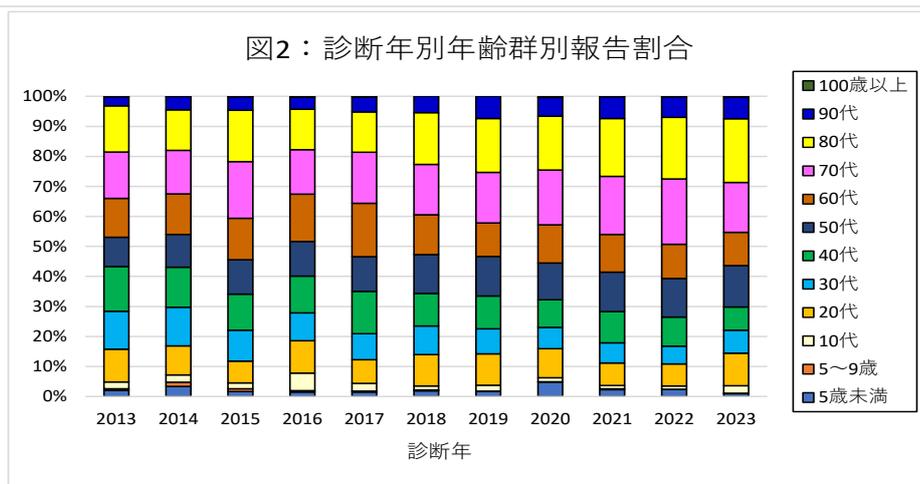
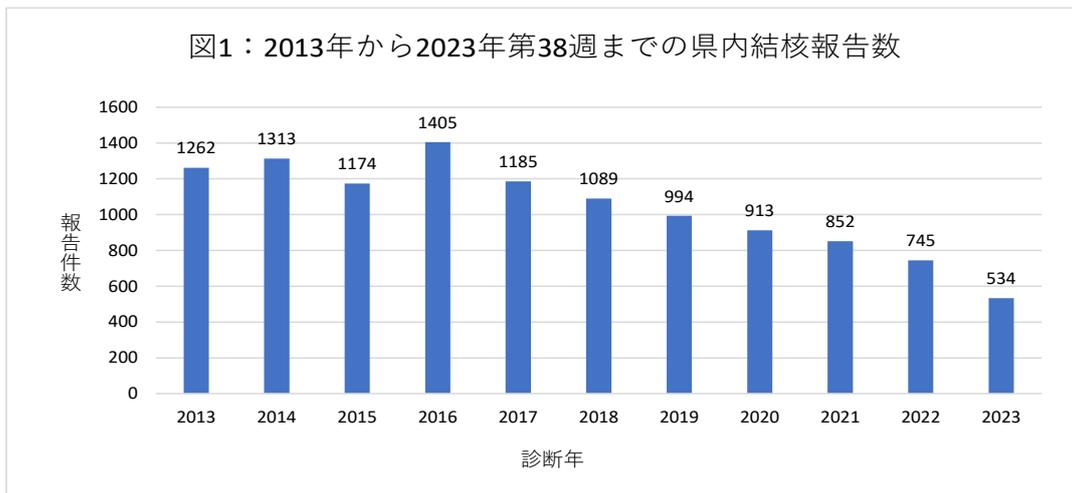
【今週の注目疾患】

《結核》

結核は、今でも年間 10,000 人以上の新しい患者が発生し、1,600 人以上が命を落としている日本の主要な感染症である¹⁾。厚生労働省ならびに千葉県では、毎年 9 月 24 日から 9 月 30 日を「結核予防週間」として、結核予防に関する普及啓発を行っている^{1),2)}。

県では、2023 年第 1～38 週に 534 例報告されている。県内における年間の累計報告数は 2016 年以降減少傾向にあり、2022 年は 745 例と過去 10 年間で最少であった（図 1）。年齢別患者割合では、60 代以上の患者の割合が 2013 年は 46.9%であったが、2023 年は 56.2%と増加している。また、2023 年は 20～30 代の割合が増加しており、2021 年が 14.2%、2022 年が 13.2%であるのに対して 2023 年は 18.9%へと増加した（図 2）。

病型別では肺結核 229 例（42.8%）、無症状病原体保有者 179 例（33.5%）、その他の結核 106 例（19.9%）、肺結核及びその他の結核 19 例（3.6%）、疑似症 1 例（0.2%）であった。その他の結核で多かったのは結核性胸膜炎 53 例（10%）、結核性リンパ節炎 25 例（5%）、粟粒結核 9 例（2%）*であった（※複数症状のあるものはそれぞれに計上している）。



2022 年の日本の結核罹患率（人口 10 万対）は 8.2 であり³⁾、前年（9.2）に比べ 1.0 減少し、引き続き結核低まん延国の水準である 10.0 以下となった。千葉県の結核罹患率は 7.9 であり³⁾、「千葉県結核対策プラン（平成 29 年 3 月改訂）」で 2020 年までの目標とした 10.0⁴⁾を下回って

いる。日本の結核罹患率は、米国等の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。但し、2020年以降の結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられるため、注意が必要である³⁾。

罹患率が減少する一方で、新登録結核患者における外国生まれの患者の割合が増加しており、2022年は全国で11.9%と前年の11.4%から0.5ポイントの増加となっている。特に20～29歳における外国生まれ新登録結核患者の割合は、前年の72.6%から77.5%と4.9ポイントの増加となっており、20～29歳の新規患者のおよそ4分の3を占めている³⁾。

県では外国人対策として、千葉県DOTS支援員等派遣事業により通訳を派遣し、患者の服薬支援の強化を図っている⁴⁾。

●結核とは

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つである。結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがある。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要である¹⁾。

■参考・引用

1)厚生労働省：結核（BCG ワクチン）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

2)千葉県：結核予防週間

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekkaku/tbweek.html>

3)厚生労働省：2022年結核登録者情報調査年報集計結果について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00010.html

4)千葉県：千葉県結核対策プラン

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/documents/kekkakutaisakupuran.pdf>

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2023年第38週の県全体の定点当たり報告数は、前週の24.12人*から減少し、14.43人であった。

地域別では、特に市原(21.18)、君津(20.31)、長生(18.86)保健所管内で患者報告数が多かった(図)。

*前週報告時点では23.99人

図：直近5週間の県内COVID-19定点当たり報告数の推移(保健所別)

